

◇卒業論文要旨

(昭和51年3月卒業生)

神戸市の都市機能

石上まり

神戸市は歴史においても経済や産業構造においても神戸港と不可分に結びついていて、現在神戸市の一部たる神戸港が事実は今日の神戸市を建設し国際港都としての神戸市に発展させたのであって、まさに神戸市の発展は神戸港の存在なくしては論じることができない。神戸市の経済が港湾活動に依存する比率は40%～60%にも達している。

神戸港は自然条件に恵まれた天然の良港で、施設も整備され、大阪(阪神)経済圏をそのヒンターランドとし、わが国で横浜港と並ぶ屈指の外国貿易港であり、総取扱貨物量は全国一の座を占めている。長期にわたって全国最大の貿易港として知られてきた神戸港も、年を追って全国的シェアが低下し、横浜港に輸出額、輸入額ともに追い抜かれ、わが国第2の貿易港に転落を余儀なくされた。神戸港の貿易停滞の原因は、機械・機器・金属及び同製品・鉱物性燃料のウェートが低いこと、戦後の市場構造の変化、とくにアジア大陸市場の喪失である。

神戸市の産業は神戸港と密接な関係を持ち、港湾を控えた有利な立地条件から造船所が建設され、それに関連して各種の工業が発達した。食料品(製粉・精糖等)、輸送用機械(造船等)、鉄鋼、ゴムなどの港湾型の少数特定工業に片寄っていて、そのほとんどが原材料の輸入や製品の輸出等の関係で臨海地帯に集中するなど港とのつながりは密接で港に依存してきた。また市内において少数大企業の占める地位が大きく、企業間格差が非常に大きく、はなはだしい経済の二重構造が認められる。神戸市の工業の不振の根拠にあげられるのは、あまりにも基礎的な素材の生産財に傾斜し下請企業の育成と近代化には著しく不適当であるという工業構造自体の欠陥・貿易構造の変化・政治の中央支配の強化である。

商業について言えば、大阪という大商業都市の影響を受け、卸売業については充分成熟しないまま今日に至ったが、小売業は国際的センスを十分に発揮し、着実に業績を伸ばしている。貿易の町神戸として広く知られているように、神戸港をひかえて市内には多くの中小貿易商社がある。また神戸は洋菓子の発祥地といわれ、歴史を持ちブランド知名度の高いメーカーも多い。

山形県西川町の地域的性格

一 過疎問題と農業を中心に 一

大場とよ

山形市からバスで町の中心部まで約1時間半の位置にある西川町は、昔から、庄内と内陸地方を結